

平成25年度

文部科学省受託

学校と地域の新たな協働体制の 構築のための実証研究

実績報告書

平成26年3月

特定非営利活動法人
大分県「協育」アドバイザーネット

目 次

第1章 本事業の実施内容

- 1-1 本事業の事業概要
- 1-2 本事業の実施体制
- 1-3 実施スケジュール

第2章 教育内容の充実のためのコーディネート機能の強化

- 2-1 コーディネーター研修会の実施
- 2-2 協育プロジェクトプラットフォームの整備
- 2-3 まとめと考察

第3章 放課後等の継続的・体系的なプログラム開発と提供の仕組みづくり

- 3-1 学校の教育活動への支援調査
- 3-2 学校の教育活動への支援
- 3-3 放課後活動のプログラム提供
- 3-4 まとめと考察

第4章 産学官民など多様な主体による学校と地域の双方の活性化のための仕組みづくり

- 4-1 検証内容
- 4-2 成果としての「仕組み」
- 4-3 具体的な事例
- 4-4 まとめと考察

第5章 今後の方向性

第1章 大分県における本事業の実施内容

1-1 事業概要

(1) 大分県における推進プロジェクト名

おんせん県おおいた・別府型ドリームプロジェクト「泉都『協育』プロジェクト」

(2) テーマ

ふるさと別府を学び、愛し、別府への旅行者への最高のおもてなしができる人材の育成

(3) 具体的なテーマ

テーマ1. 教育内容の充実のためのコーディネート機能の強化

テーマ2. 放課後等の継続的・体系的なプログラム開発と提供の仕組みづくり

テーマ3. 産学官民など多様な主体による学校と地域の双方の活性化のための仕組みづくり

(4) 事業の背景

別府市は平成18年度の文部科学省の「学校支援を通じた地域の連帯感形成のための特別調査研究事業」を受託して教育の協働の研究と実践を始めた。その成果を受けて学校支援地域本部事業のモデル事業の実施、平成23年度から市単独の「別府市地域教育力活性化事業」を実施し「協育」コーディネーターを全ての公民館に配置するとともに、本庁に専任の管理職を配置して取り組んできた。更に、その成果を踏まえ、別府市の青少年健全育成の課題に取り組むために平成25年度から3年計画で全ての公立小中学校をコミュニティ・スクールにすることとして取り組み始めた。その際、既存の公民館に配置された「協育」コーディネーターの有効性を発揮し、公民館の役割を見直すことは、今後の「教育の協働」を行政の責任として推進していくことへの啓発モデルとして実施することは重要である。そこで、現在認識している3つの課題を解決するために、官と民が一体化した総合的な「教育の協働」推進システムをつくり、地域と学校を合体し、子どもと大人を合体するという実証的な共同研究を行うものである。

(5) 検証内容

① 協育内容の充実のためのコーディネート機能の強化

日本を代表する温泉地という地域特性を活かして、ホテルや旅館等の観光産業、医療、大学、経済団体、NPO法人、行政といった産学官連携によるコンソーシアム「おんせん県おおいた・別府型ドリームプロジェクト」を形成し、「健康」、「療養」、「アンチエイジング」等の最高の癒やしを提供する人材育成のプロジェクトを組織し、疲弊する温泉地の活性化モデルの取り組みを始めようとしている。そのための1つの切り口として重要な小中学生の「ふるさと学習とおもてなし」の学びのプログラムを学校教育と連携して行い、「協育」推進のシステムづくりを行う。この事は、3年計画で全ての別府市立小中学校をコミュニティ・スクールにする別府市との連携モデルとして定着させるとともに、全ての小中学校に支援する市内全域的なコーディネートシステムづくりを推進する。コーディネーターの育成においては、「育成テキスト」を活用する。

② 放課後等の継続的・体系的なプログラム開発と提供の仕組みづくり

ふるさと別府を学び、お客様へのおもてなしができる児童生徒の育成をめざす、学校教育課程・放課後等で使用することができるモデル的なプログラムの実践や支援組織作り、さらに、コミュニティ・スクールの学校運営協議会が担うべきプログラム作りを行う。

③ 産学官民など多様な主体による学校と地域の双方の活性化のための仕組みづくり

上記1及び2の活動をする中で別府市内の企業・団体・学校・行政・民間組織等のネットワーク化を進めると共に、それぞれが持つ活動プログラムのネットワーク及び活動プログラムを全市的に提供していくシステム作りを検討した。

1-2 本事業の実施体制

担当事業：おんじん県おんいた・別府型ドリームプロジェクト
 事業担当組織：別府別府「協育」プロジェクト
 進捗を財源として多くから多くの若に育まれた別府の進歩を目標として、地域の大人で活動する「おんじん県おんいた・別府型ドリームプロジェクト」が、中学生の「ふるさと学習をおもてなし」の学びのプログラムを学校教育と連続して学び、「協育」推進のシステムと学びのプログラム開発を行う。この事は、2学期間で全市の別府型協育型中学校コミュニティ・スクールの設置と協育型との連携モデルとして展開される。



検証プロジェクトリーダー

	氏名	所属・役職等	備考欄
1	寺岡 悌二	別府市教育委員会教育長 別府市教育行政の長としての、教育活動全般に関する企画、運営に関する取みを推進していただく。	リーダー長
2	中川 忠宣	大分大学高等教育開発センター教授、大分県「協育」ネットワーク協議会会長 コーディネート役として大分大学での教育の協働に関する実践的研究成果を生かして、別府の人と人を結びつける糸口をつくる。	副リーダー長 ・事務局長
3	前田 豊樹	九州大学別府病院准教授 温泉医療、温泉による健康等の研究成果を生かして、子どもたちへの温泉に関する学びの内容を提供していただく。	リーダー
4	斉藤 雅樹	大分県産業科学技術センター主任研究員 地域産業の活性化に結びつけるため「温泉資源の活用」による「健康寿命」(健康で自立して暮らすことができる期間)の延伸をテーマとした地域産業密着型の取り組みを生かしていただく。	リーダー
5	名主川 久仁	立命館アジア太平洋大学学長室課長 地域の大学として、子どもたちの語学、基礎学力、他の国や地域の文化等の学びを支援していただくための、学生を含めた日常的な関わりを作っていただく。	リーダー
6	長尾 秀吉	別府大学文学部人間関係学学科准教授 地域の大学として、子どもたちの語学、基礎学力、他の国や地域の文化等の学びを支援していただくための、学生を含めた日常的な関わりを作っていただく。	リーダー
7	麻生 雅憲	大分県中小企業家同友会副代表理事 地域の企業として、子どもの職場体験や企業からの学習メニューの提供をしていただく。	リーダー
8	野上 泰生	NPO法人ハットウ・オンパク運営室長 地域活性化に取り組むリーダーとしての識見を提供するとともに、学習プログラムの提供、周囲の関係者への啓発役を担っていただく。	リーダー
9	恒松 栖	別府市退職校長会会長 教職経験者及びその代表として、その識見を提供するとともに、子どもたちの学びに必要なプログラムの提供、周囲の関係者への啓発役を担っていただく。	リーダー
10	和田 俊二	別府市PTA連合会長 地域住民、保護者の代表としての提言をいただくとともに、子どもたちの学びに必要なプログラムの提供、周囲の関係者への啓発役を担っていただく。	リーダー
11	永井 宏道	別府市立小学校校長(3校代表) 学校代表として、学校が求める要望を聞かせていただくことや、実践的な検証等を行っていただく。	リーダー
12	伊藤 貞之	別府市立南部地区公民館長(公民館長代表) 現在の学校内外の活動支援コーディネーターとしての課題、今後の方向性への示唆をいただくとともに、住民への啓発役を担っていただく。	リーダー
13	園部 秀靖	NPO法人大分県「協育」アドバイザーネットワーク理事長 事業申請者としての事務を担っていただく。	リーダー

事務局

	氏名	所属・役職等	備考
1	中川 忠宣	大分大学高等教育開発センター教授、大分県「協育」ネットワーク協議会会長	事務局長
2	安達美和子	NPO法人大分県「協育」アドバイザーネットワーク事務局長	事務局次長
3	江口 清美	NPO法人大分県「協育」アドバイザーネットワーク会員	

1-3 事業スケジュール

「京都府『協育』プロジェクト」事業スケジュール(実績)									
事業内容	検証のための柱	月							
		～8	9	10	11	12	1	2	3
会議	「協育」プロジェクト会議		第1回プロジェクト会議<17日)			プロジェクト会議 ※研修会参加		第2回プロジェクト会議(26日)	
コーディネーター 機能の強化	コーディネーター研修会					第1回研修会(5日)		第2回研修会(26日)	
	プラットフォーム機能の整備	別府市教委打合せ	別府市教委第1回協議	学校支援本部と打合せ				機能の評価	
プログラム開発と提供	学校のすき間支援	各学校との打合せ		支援プログラム決定		プログラム実施 →			
	学校の教育支援			支援プログラム決定		プログラム実施 →			
	放課後活動の支援			支援プログラム決定		プログラム実施 →			
仕組みづくり	ネットワーク化活動プログラムづくりと全市的なシステムづくり	市内関係者打合せ		プログラム募集	→				

第2章 教育内容の充実のためのコーディネート機能の強化

コーディネート機能の強化を行うために2つの検証を行った。

1つ目はコーディネート機能を向上させるためにコーディネーター及び教職員、地域住民等を対象にした研修会を実施し、「学校と地域の協働体制」に関する研修会を行った。2つ目に情報の収集・提供を広範囲で系統的に実施するためのモデル的な取り組みを行った。このことは3つ目の産学官民の共同体制を作っていく上で重要である。

2-1 コーディネーター研修会の実施（2回 全12時間） ・ ・ 別添資料1

1回目

- ①対象 別府市内の公民館と社会教育関係者、学校教育関係者、PTA 関係者、ボランティア活動者など
- ②期日 平成25年12月5日（木）
- ③内容 研修1 別府市における教育の協働の取組の方向性
研修2 教育の協働の推進に関する先進地事例研究
研修3 熟議 教育の協働の仕組み作りとコーディネート機能を考える
研修4 日常のコーディネートの課題を考える

2回目

- ① 対象 別府市の公民館と社会教育関係者、学校教育関係者、PTA 関係者、ボランティア活動者など
- ② 期日 平成26年2月26日（水）
- ③ 内容 研修1 別府市におけるコミュニティ・スクールの取り組み
研修2（事例報告）県内の実践事例から教育の協働を考える
研修3 第1回コーディネーター研修や全国の先進地から見たもの
研修4（演習）コーディネーターが提案する学びのプログラム作り

上記2回の研修会において、教職員はコミュニティ・スクール導入に関する課題意識があり、具体的な取り組み方法についての学びが出来たと回答している。教職員以外はコミュニティ・スクールの取り組みに関する情報を持ち得ていないため、初めての研修機会であったようである。教職員及び教職員以外全ての参加者にとって非常に有効であったと考えられる。

2回の研修会の午後に実施した熟議において別府流のコーディネートシステムを考えると共に学校運営協議会が提案・実施するプログラムの開発を行った。このプログラムは今後別府市の中において具体的に実施できるよう本プロジェクトより提案していく。

※研修プログラムについては別途資料1で示す。

泉都別府「協育」プロジェクト事業 第1回コーディネーター研修会開催のご案内

別府市では、青少年の健全育成の現状を踏まえ、地域ぐるみで子どもを育てる体制づくりを目的として「別府市地域教育力活性化事業」実施してきました。さらに、平成25年度から順次、全ての小中学校をコミュニティ・スクールに指定して、家庭・学校・地域が一体なって子育てをする街づくりの取り組みを始めました。そのために「ボランティア活動を促進するための研修会」（コーディネーター養成）を開催します。

【日時】 平成25年12月5日（木）6日（金）

1日目研修：9：15～16：00

2日目研修：10：00～12：00（希望者）

【会場】 大分県立社会教育総合センター 2F 研修室

（別府市野口原 3030-1・大分県ニューライフプラザ内）



【参加対象】別府市内の公民館等社会教育関係者、学校教育関係者、PTA 関係者、ボランティア活動者、教育施設・機関関係者、自治会関係者 など（午後は、対象者を絞った演習を行います）
※別府市外の方の参加もお待ちしています。

【定員】 午前（講演）：90名 午後（演習）：40名

【参加費】 無料

【参加申込み方法】

（1）申し込み期限 平成25年11月28日（木）

（2）申し込み先（「泉都別府『協育』プロジェクト事務局」です）

※申し込み記載内容により、下記の郵送、メール、ファックス等で申し込みをお願いします。
（学校等は一覧表で一括してお申し込みください。）

①郵送先：〒874-0834 別府市新別府2組-1 安達美和子 宛て

②E-mail：kyouikujimu@kyouiku-adviser.net（NPO 法人大分県「協育」アドバイザーネット）

③問合せ/申込み：電話/FAX：097-554-6027（大分大学高等教育開発センター 教授 中川忠宣）

申し込み記載内容様式

1. 申込み代表者（1）申込み代表者氏名（2）連絡先住所（自宅・職場を明記）及び電話番号
2. 参加者名簿（1）参加者氏名（2）所属（下記の番号）（3）参加内容（下記の番号）

①社会教育関係職員	②学校教育関係職員	③教職員	④PTA	⑤公民館運営審議会委員	
⑥社会教育委員	⑦学校運営協議会	⑧地域団体・組織	⑨企業	⑩ボランティア	⑪その他
参加内容	①午前のみ	②午後のみ	③1日中		

主催：泉都別府『協育』プロジェクト

参考：この研修会は文部科学省委託事業として実施するものです。

「学校と地域の新たな協働体制の構築のための実証研究（学校・家庭・地域の連携協力推進事業）」

☆泉都別府『協育』プロジェクト委員関係者（委員長：寺岡悌二別府市教育長）

別府市内の教育関係者、別府市PTA連合会、別府市退職校長会、立命館アジア太平洋大学、別府大学、大分大学高等教育開発センター、大分県中小企業家同友会、NPO 法人ハットウ・オンパク
NPO 法人大分県「協育」アドバイザーネットの各代表者、温泉研究関係者等

研修プログラム

講師紹介

杉並区立杉並第一小学校学校支援地域本部長

伴野博美氏

平成 14 年から杉並区学校教育コーディネーターとして活動を始め、東京都杉並区で最初の地域子ども教室「すぎっ子クラブ」を立ち上げる。平成 16 年から拠点リーダーとして子どもの居場所づくりに関わる。平成 19 年度からは杉並第一小学校の学校支援地域本部長として学校と地域の連携・協働活動のプログラムを展開し、最近では「学校のすき間支援」として地域の方の参画による「朝先生プログラム」は多方面からの高い関心と評価を受けている。

役職 文部科学省 社会教育アドバイザー

杉並区立杉並第一小学校学校運営協議会委員 など

NPO 法人スクール・アドバイス・ネットワーク理事長

生重幸恵氏

PTA 会長時代から学校を支援する活動を行ない、区内の他校 PTA 会長経験者と共に平成 14 年 7 月にスクール・アドバイス・ネットワークを設立し、杉並区教育委員会との協働や東京都内各区の教育委員会とも連携し、さらには全国各地での「学校支援」「地域活性化」のプロジェクトに参画。企業の地域教育貢献の必要性和アドバイスし、企業の持っているノウハウを学校授業に繋げるためのプログラム作成。平成 22 年 2 月から文部科学省第 6 期中教審中央委員として活躍している。

役職 文部科学省中央教育審議会中央委員など

☆現在、全国各地の講演会や研修で活躍中

午前の部

地域の方々も含めて、多くの方々との研修

9:20～ 研修 1 (講義) : 別府市における「教育の協働」の取り組みの方向性を説明します

講師 : 別府市教育委員会

内容 : 別府市の地域教育力活性化事業の現状や、今後のコミュニティ・スクールの導入に関する説明、市民の方々へのご協力をお願い等を行います

10:00～ 研修 2 (講義) 「教育の協働」の推進に関する先進地(東京都杉並区を中心に)の事例を通して、学校という場を中心とした「家庭、学校、地域住民総参加の子育てのまちづくり」の意義と方向性を考えます

講師① : 杉並区立杉並第一小学校学校支援本部長 伴野博美氏

演題 : 学校支援地域本部の取り組みから、その成果と地域社会の役割を考える
～学校運営協議会・PTA・放課後子ども教室等の事業から～

講師② : NPO 法人スクール・アドバイス・ネットワーク理事長 生重幸恵氏

演題 : 「教育の協働」の意義と地域コーディネーターの重要性を考える

※コーディネーター機能や地域住民の参画の全国の事例や国の方策から考える

午後の部

コーディネーター活動をされる方を中心に研修

13:00～研修 3 (演習) 「教育の協働」の仕組みづくりとコーディネーター機能を考えます

【模擬熟議】学校運営協議会(コミュニティ・スクール)と学校支援地域本部の協働への歩みを熟議(評価→企画→協働システム)をとおして考えます。

→まとめ : 「別府市流のコミュニティ・スクール」システムを提案する

チーフファシリテーター 生重 幸恵氏

サブファシリテーター 伴野 博美氏 中川 忠宣氏

16:00 終了 講義型研修と参加型研修を交え、活動推進に必要な知識や手法を学び合い、考え合いながら学校支援活動の役割を明確にしていきます

※希望者は 6 日(金)の 2 日目の研修会にもご参加ください。

文部科学省委託事業

学校と地域の新たな連携体制の構築のための実証研究
(学校・家庭・地域の連携協力推進事業)

京都別府『協育』プロジェクト事業

第2回コーディネーター養成研修会

別府市が全市一中学校で導入を進めていますユニバーシティスクールを、迅速に取り組んでいる地域からの学校実証について、ほかに数校にも学校と地域の方々の連携を促めるために、人材の育成・育成方法やコーディネーター養成等について、実証事例を基にして学ぶものです。
先登方やPTA関係者、学校運営に関わっている地域の方々のご参加をお待ちしています。

日時

平成26年2月26日(水) 9:20～18:00

受付開始 9:00～

会場

大分県立社会教育総合センター 2F多目的ホール
(別府市野口原3030-1・大分県ニューライフプラザ内)

対象

別府市内の公民館等社会教育関係者、学校教育関係者
PTA関係者、ボランティア活動者、教育施設・機関関係者
自治会関係者など

研修会プログラム内容を参考に、参加したい研修への参加申込み
をしてください

別府市外の方の参加もお待ちしております。



参加申込み方法

(1)申し込み期間 平成26年2月20日(水)

(2)申し込み先

※学校等の関係者は、それぞれの学校や機関で取りまとめた上でなければなりません。
※申込み記載内容の形式を、下記の郵送、メール、ファックス等で申し込みを依頼します。

①郵送先:〒874-0234 別府市新野口第一 企画事務所 宛て

(「京都府教育『協育』プロジェクト事務局」です)

②E-mail: kofukojishu@kyo-fyee.or.jp (Yahoo!個人メール「協育」アドレスへ送る)

③問い合わせ先: 電話0974-942-882(大分大学高等教育開発センター 庶務 0115室)

申込み記載内容様式

1. 申込み代表者(1/申込み代表者氏名は2通商英西(自署)欄を明記し及び電話番号)

2. 参加者名簿

□1)参加者氏名

□2)所属(下記の番号)

①社会教育関係職員 ②学校教育関係職員 ③他職員 ④PTA ⑤公民館運営審議会委員

⑥社会教育委員 ⑦学校運営協議会 ⑧地域連携・組織 ⑨企業 ⑩ボランティア ⑪その他

(□)参加内容(下記の番号) □午前のみ □午後のみ □1日中

主催＝京都別府『協育』プロジェクト(委員長 寺岡修二(別府市教育長))

事務局＝別府市教育文化プロジェクト運営事務局

別府市内の有形関係者、公民館等へ連絡先、別府市連絡協議会、公民館アソシア大分県大学、別府大学、大分大学高等教育開発センター(別府市)など関係者から協賛の個人(以下「アソビ」)やPTA(以下「アソビ」)協育プロジェクト事務局へのご参加者、ご意見等をお寄せください。

2-2 協育プロジェクトプラットフォームの整備

コーディネーター研修の実施に伴って下記のような取り組み及び課題が明らかになった。コミュニティ・スクールを推進する上で、コーディネーターが地域の情報を収集し、学校運営協議会が機能するための総合的な情報プラットフォームが必要であることが見えてきた。言い換えれば、コーディネーターの資質と共に情報プラットフォームは両輪であることがわかる。今後、別府市における現在の学校支援地域本部が各学校の学校運営協議会とどう連携して地域の教育力を学校の教育課題にマッチングするか、そのシステムを今後作っていく必要がある。

① プラットホーム体制

- ・現在、別府市は公民館に地域支援本部を置いてエリア内の小中学校を支援している。
→今後この5つの地域支援本部の統合もしくは連携の強化をはかる必要性が見えた。（各地域支援本部の情報量が少ないこと及びエリア外の情報をそれぞれの地域本部が共有していない）
→よって、全てのコミュニティ・スクールへの別府全体の情報を提供するプラットフォーム（スーパープラットフォーム）の必要性が研修会から見えてきた。
←別府流コミュニティ・スクールのける対応すべき課題の1部が整理できた。

② プラットホームの業務

- ・地域支援本部の業務は日常的なエリア内の情報収集および提供を充実することが求められる。
- ・スーパープラットフォームは別府市内全域の情報を収集し各地域本部または各学校への情報を提供するシステムが求められている。
→コミュニティ・スクールの全校実施に伴う、別府市全体の情報集・提供システムの必要性。
→スーパープラットフォームと学校支援本部とコミュニティ・スクールのそれぞれのコーディネート機能をどう融合するかが今後の課題である。

③ 対象エリア

- ・現在の学校支援地域本部は中学校（公民館エリア）エリアの小中学校を対象。
- ・スーパープラットフォームは市内全地域全学校を対象とした情報収集提供。
→コミュニティ・スクールは、どのエリアからの教育支援を描いているのかが課題である。

3-3 まとめと考察

コーディネート機能の強化の取り組みをとおして、「教育の協働」に関する効果やその方策に関することが保護者・地域住民はもとより、教職員や関係者への周知・理解がこれからであることが見えてきた。（研修会報告書参照）さらに、その基盤となる教育行政が施策として推進するためのビジョンと予算を明確にして教職員だけでなく、支援する立場にある地域住民にも早急に周知・啓発する必要性が見えてきたと言える。さらに、現在の学校支援地域本部がコミュニティ・スクールにどう関わるのかということも、コミュニティ・スクール導入には重要なポイントである。

第3章 放課後等の継続的・体系的なプログラム開発と提供の仕組みづくり

地域の企業団体等がこれまで子どものために実施してきた様々な学習プログラムが別府市内に散在している。本事業においてそのプログラムを一元的に集約し、事例として学校や放課後の子ども達の活動への活用を研修するために以下の取り組みを行った。

3-1 学校の教育活動への支援

下の表は、3つの協力校に行った平成25年9月調査と、右は、支援可能な内容を各学校に回答したものである。

別府市立鶴見小学校が地域からの支援を望んでいる内容（実施済み・今後の要望）

	支援内容	支援方法
す き 間 支 援	①木曜日放課後のスキルアップタイム（月2回程度）（15時頃から学年に応じて時間設定）における地元大学生や高校生による算数等の補充学習支援（全学年）	
	②学校司書勤務日外にも、常に子どもと本をつなぐ大人がいる学校図書館づくりのための継続的なボランティア（有資格者が望ましい）派遣等の学校図書館支援	iPad を使って、留学生と子どもたちが英語で交流する活動を紹介
学 習 支 援 プ ロ グ ラ ム	①別府の産業（竹細工）を学ぶための学習支援（3年）	竹細工伝統会館で竹の訓練校を卒業し職人さんとして活躍している方を紹介。 実際に竹にふれ、竹の特性・特徴を知る。生活に中で使われている竹製品で平面編の面白さや竹を立体的に作り上げる難しさを体験することで竹の歴史や新しい竹の世界を学ぶ。
	②別府観光や別府の魅力を総合的に学ぶための学習支援（4年）	別府の民話を日本語、英語、中国語の3ヶ国語でつくっています！留学生の交流もあわせて楽しむ。
	③地域教材として別府の歴史や観光、温泉を学ぶための学習支援（6年）	海外のJICA拠点で、活動した方を紹介 今年の9月にドバイに行った方を紹介 他者に対する共感や助け合いの伝統を学ぶ（温泉文化） おんせん県おおいた別府型ドリームプロジェクトのカリキュラム評価委員を紹介
	④おもてなしの心等を学ぶため、キャリア教育の一環として実習体験ができる ホテル等の選定支援（6年）	中小企業同友会・観光協会・オンパク等を紹介

別府市立緑丘小学校が地域からの支援を望んでいる内容（実施済み・今後の要望）

	支援内容	支援方法
す き 間 支 援	体育の水泳の監視	
	特別な支援を必要とする子どもへの寄り添い、声かけ、見守りの補助	
	放課後における教科での補充指導の補助	
学 習 支 援 プ ロ グ ラ ム	①読み聞かせ・パネルシアターを行っている団体に来てもらい、読み聞かせ・パネルシアターを見ることを通して、本に親しませたい。（1年）	市内の読み聞かせグループやダンパネ団を紹介
	②パネルシアターやブラックシアターや指人形を使った劇を見ることを通して、読書の読解の力を深めていきたい。（2年）	市内の読み聞かせグループやダンパネ団を紹介
	③APUの外国の学生との遊び（ゲーム等）を通して交流を図り、国際理解を深めたい。（3年）	APU・別府大学の学生を紹介 遊びをとおして外国語で日常会話（あいさつ）など勉強し、英語の面白さを感じることで相手を理解する心を学ぶ
	④別府の特産品である竹製品の簡単な作り方の指導をして頂き、竹製品の素晴らしさを学ばせたい。（3年）	竹細工伝統会館で竹の訓練校を卒業し職人さんとして活躍している方を紹介。 実際に竹にふれ、竹の特性・特徴を知る。生活に中で使われている竹製品で平面編の面白さや竹を立体的に作り上げる難しさを体験することで竹の歴史や新しい竹の世界を学ぶ。
	⑤和楽器の演奏（太鼓・笛・尺八）を実演してくれる人（3年）	中国を好きで、尺八の演奏をする地域の方を紹介
	⑥図工で、別府を話題にした絵手紙の作成の仕方を学び、故郷を愛する心を育てたい。（4年）	公民館講座の方を紹介
	⑦図工で、大分県や自然を話題にした絵手紙の作成の仕方を学ぶことを通して、故郷や自然を愛する心を育てたい。（5年）	公民館講座の方を紹介
	⑧外国で支援活動などを行った経験のある方にその時の話や思いを語ってもらう。そして、映像（写真）などをしながら、外国の様子を知り、国際理解にきっかけにしたり、志を持って仕事している人の思いにふれさせ、自分の生き方を機会としたい（6年）	海外のJICA拠点で、活動した方を紹介 今年の9月にドバイに行った方を紹介 他者に対する共感や助け合いの伝統を学ぶ（温泉文化）

別府市立石垣小学校が地域からの支援を望んでいる内容（実施済み・今後の要望）

	支援内容	支援方法
す き 間 支 援	①登下校時の見守り	
	②校内の環境整備（学校園の整備等）	
	③朝の活動（読み聞かせ等）支援	
	④夏休み中の学力向上ステップアップ講座（学習教室）における学習支援	
	⑤家庭科調理・裁縫実習補助	
学 習 支 援 プ ロ グ ラ ム	①石垣校区の昔の生活を知ろう！（そろばん名人を招聘）	②留学生がiPadを使って英語で絵本を読んだり、英語学習ソフトを活用したり、遊びながら学ぶ交流活動を紹介。
	②私たちの住む別府市の自慢をさぐろう！（留学生を招聘）	（留学生と日本人スタッフがペアとなり、留学生が英語で子どもたちに話しかけ、日本人スタッフが子ども達とのコミュニケーションの橋渡しを行う。）
	③環境を守ろう！～自分たちにできること～（環境保全の活動をしている方を 招聘）	県環境アドバイザー・環境エコ活動をしている団体を紹介
	④自分たちの将来を見据えた分野や職種について学ぼう！（キャリア教育）	留学生がiPadを使って英語で絵本を読んだり、英語学習ソフトを活用したり、遊びながら学ぶ交流活動。
	⑤国際理解教室へのネイティブスピーカーの招聘	留学生と日本人スタッフがペアとなり、留学生が英語で子どもたちに話しかけ、日本人スタッフが子ども達とのコミュニケーションの橋渡しを行う。

3-2 学校の教育活動への支援

①別府市立石垣小学校への支援

○大分大学の学生による別府支援サークル「コネクト」の放課後学習支援が始まった。平日は支援が

困難であるが、大学の長期休業中に石垣小学校の児童への学習支援を行った。「コネクト」のメンバーを拡大し学校支援の放課後学習支援のみならず、授業支援も考えている。

石垣小学校ボランティア活動学生アンケートの記録（一部掲載）

<活動初日の感想>

◎子どもにとって「よかったなあ～」と感じたこと

- ・いつもより楽しく勉強することが出来たこと
- ・大学のことを話してあげることで、将来のことを考えることが出来たこと
- ・異なる新しい環境でやる気もない子もやる気はすこしでたかなと思った
- ・自分たちと近い年代の人と交流する機会があるといい経験になるかと
- ・勉強が楽しく出来たと思うので、勉強に対する苦手が日頃より少なくなったと思う
- ・楽しく気楽に勉強できたのではないかと思った

◎子どもに気をつけて欲しいこと

- ・みんなで同時に話してくること
- ・難しく思うけどやっぱりけじめを付けられるようになると、大きくなってからかなり役立つと思う
- ・けんかをしないでなかよく
- ・目標をもって行動

◎あなたにとって良いことがありましたか

- ・朝日と石垣を比べて、子ども達の共通点を見つけられたことで、他の学校に行く時に使える話のネタを見つけることが出来たこと
- ・自分の算数のできなさを実感できたが、楽しかった
- ・今の子どもの現状が少しわかった
- ・人間の記憶力のあいまいさに気づいた
- ・子どもが楽しくまじめに取り組んでいたのが、より気持ちが入りました
- ・子どもへの勉強の教え方を学んだ

◎その他

- ・算数のプリントの丸付けをしました（事前に内容がわかるとよい）
- ・人見知りをする子どもたちが少ない子に驚いています
- ・子どもに質問されたとき初めて見る問題だととまどうことがあったので、前もってどのような内容か知りたい（事前に教える内容を連絡して欲しい）
- ・人数がもう少しほしい

<活動終了時の感想>

◎子どもにとって「よかったな～」と感じたこと

- ・大学生という存在を身近に感じることで、大学生という存在に憧れを感じる事が出来たようだ
- ・多くの先生がいたことで、教え方も様々であり、子どもたちにとって最適な方法が見つかりやすかったのではないかとということ

- ・いつもと違う環境で勉強できたことで、勉強に対するイメージが良い中で学べたのではないかということ
- ・いつもと違う先生（大学生）と触れ合うことで、子どもたちは新鮮な気持ちで、素直に教えてもらうことが出来たように感じる。また、いつもより楽しかったのではないかと感じる
- ・先生（大学生）の人数が多いので1対1で教えることが出来たこと
- ・担任の先生と学生という違う立場に立つ人が同じように教えると雰囲気異なるのだらうと思う。そのことから自分の意識次第で勉強に対する意気込みが変わるということを感じ取ってもらえたのではないかと思うこと

◎子どもに気を付けて欲しいこと

- ・わからない問題は「からない」と言って欲しい
- ・なるべく「先生」と呼んで欲しかった
- ・子ども自身が気づいていくような、思いやりをもってお互いに教え合う友達づくりをして欲しい

◎あなたにとって良いことがありましたか

- ・1日・2日・・・と教えていくうちに、効率の良い教え方を学ぶことが出来たこと
- ・自分自身が育った地域に貢献でき、子どもたちも楽しく学んでくれたと感じることが出来たこと
- ・小学生の内容を振り返ることが出来たこと
- ・今の小学生の現状を知ることが出来たこと
- ・子どもへの対応の仕方を学ぶことが出来たこと
- ・子どもだからといって、軽くあしらうことは出来ないと感じたこと

◎その他

- ・子どもたちをどこまではしゃがせるのか、コントロールする力が、大学生も学ぶ必要があると思った
- ・その日に解く問題に先に目を通すことで、効率よく教えることが出来るようになった
- ・課題の準備を早めにしてもらえてありがたかった
- ・先生たちが、優しく丁寧に接してくれたので助かった。そして、先生たちが児童の能力状態を把握し、事前に教えてくれたのがよかった。また、問題に関する情報を活動前に簡単に教えてくれるだけでもやりやすさが違った
- ・意外に時間が過ぎるのが早かった



②鶴見小学校への支援

活動1. 別府大学生による放課後学習支援をおこなった。別府市内にある大学であるため平日の学習支援が可能であり、今後、支援者数の拡大が学校現場から求められていることが分かった。

別府市立鶴見小学校ボランティア活動の学生アンケートの記録（一部掲載）

◎子どもにとって「よかったなー」と感じたこと

- ・褒めてあげると嬉しそうにしてくれるので、「頑張ったね」「よくやった」と声をかけて良かったと感じました
- ・微力ながら力になれた

◎子どもに気をつけて欲しいこと

- ・すぐに終わらせたい気持ちはわかるが、すぐに解答を見ないようにすべきだと思いました
- ・もう少し読みやすく書いて欲しい

◎あなたにとって良いことがありましたか

- ・大学生がこうして小学生とふれあえる機会は無かったので、とても良かった。教師や親でなくとも、地域で多くの方とふれあえるのはとても良いことだと思いました
- ・教育実習前の良い経験になった



活動2. 竹細工伝統会館で竹の訓練校を卒業し活躍中の職人を招待し、実際に竹に触れ、竹の特性・特徴を知る。生活に使われている竹細工で平面編の面白さや竹を立体的に作り上げる難しさを体験し、竹の歴史や新しい竹の世界を学んだ。（1月24日3年生に3クラス）

別府市立鶴見小学校ボランティア活動の担任教師のアンケートの記録

◎成果

- ・目の前でいろいろな竹を紹介して下さったり、実際に竹を割ったりして頂き、子ども達はすごく興味津々で、集中して見入っていました。また、テンタを使ったときは、多少抵抗やためらいが見られましたが、すぐ慣れ、いろいろな形をいくつも作っており、子ども達も喜んで意欲的に取り組んでいました。
- ・実際の竹やかご作り等、間近に見ることや、触れることが出来、子ども達は竹の持つしなやかなかさ、竹作りの難しさを理解できて良かった。
- ・必要なことは全てして頂きありがとうございます。写真なども用意して下さり、子ども達にとってすごく良い思い出が出来たと思います。
- ・先生方的人数も十分で、楽しい雰囲気でした。

◎改善点（課題）

- ・3年生では、グループや班での活動は、使い慣れたものなら良いのだが、今回のように初めてであった素材（テンタ）では、すごく難しいと思いました。
- ・テンタの活動は、もう少し子どもの個人の活動を十分に与えた方が良い。（3年生で協働は少し難しいようだった）

- ・打合せをしていたときよりも人数（支援などの）が多く驚きました。1人ひとりの写真はやはり時間が限られているので難しいですね。（※もう少し時間が合ったら良かった。）私自身もどの程度支援して良いのかあまりわかりませんでした。申し訳ありませんでした。

◎今回の事業で感じられたこと（業務の増加や授業のしにくさなど）

- ・大変お忙しい中、初のプロジェクトをこの別府市立緑丘小学校の3年生でしていただきありがとうございました。日本の伝統文化や技術を目の前で見ていた子ども達は夢中に見入っていました。いつもと違いとてもどの活動でも生き生きとしており、子ども達にとってとても良い事業だと感じました。本当にありがとうございます。
- ・とても楽しく、子ども達が喜んでいたので、良い取り組みだと思います。本当にありがとうございました。

③緑ヶ丘小学校への支援

活動：竹細工伝統会館で竹の訓練校を卒業し活躍中の職人を招待し実際に竹に触れ、竹の特性・特徴を知る。生活に使われている竹細工で平面編の面白さや竹を立体的に作り上げる難しさを体験し、竹の歴史や新しい竹の世界を学んだ。（11月29日3年生に2クラス）

<活動プログラムの実施例>

8：45

○竹の種類を知る

- ・模様の違う竹などを見ながら、いろいろな竹があることを学ぶ。
- ・大分は「ま竹」を使って竹工芸の作品を作ることがおおい。

8：50

○竹割の道具を使って、竹を割る実演

- ・濡れている竹（扱いやすくするために水に濡らすことを説明）を使って、幅とりの作業を見せる。
- ・専用の器具を使って面の部分を整える作業を見学する。
- ・竹を2枚に裂いて、しなやかさと柔らかさ、強さも出ることを学ぶ。

○竹かごを作る実演

- ・竹の横の部分を編み始める。
- ・網目が均一できれいでないと形が整わないことや水に濡れていないと竹が外れたりするので、手早く作業をすることを学ぶ。

9：20

○いろんな作品を見せて、模様の美しさなどを感じさせる。

- ・編み方で模様が違ったり、色が違ったりする作品を見る。

9：30

○質問コーナー

- ・模様や作品などは何種類あるのですか。
- ・制作時間はどれくらいかかるのですか。
- ・いつも一人で作るのですか。

- ・竹の職人さんは何人くらいいるのですか。
- ・竹の勉強はどこでするのですか。

9 : 40

- 「テンタ」の説明
- 各自に配布して作品作りを始める。
 - ・自由に作品を作る。(冠・丸形・首輪・動物の形・・・)
- グループでテーマを決めての作品作り。
 - ・完成の笑顔 (記念写真)

10 : 20

- 片付けとまとめ
- <感想>竹のことがいろいろ分かった。「テンタ」は楽しく形づくりができた。竹を切るのが難しそうだった。竹を編むことはやさしい部分と難しい部分があることが分かった。

<終了>

Tenta(テンタ)別府生まれの竹細工・知育玩具

《学び・遊び方》

三角形の頂点の竹ヒゴの長さが少しずれている部分に、別のパーツの同じ部分をはさみ込んでつなげます。この方法で、立体としても、平面としても組み立てることができます。

このように固定させて組み立てず、床に並べるだけでも、さまざまな形を楽しむことができます。

竹ヒゴを三角形に編んだパーツを組み合わせて、組み立てる、並べる、積み上げる、重ねるなど、自由自在に組み合わせることで、平面から立体まで、さまざまな形をつくることができます。1セット8ピースですが、数を増やせば、大きな作品づくりも可能。自信作を、オリジナルのオブジェとしてお部屋のインテリアにしても活用できます。指先にぬくもりのある竹の感触を楽しみながら、お子さまの想像力と創造力が自然に育まれます。

◎商品名 Tenta (テンタ) 命名の由来

このパーツは逆三角形のキツネの顔に似ているところから、当初「トライアングル フォックス」と命名されました。ところが、あるイベントでこのパーツを手にした子どもたちは、「カマキリの顔に似てる」とか、「虫のひげみたい」と言うのです。そこで、イタリア語で「ひげ (触覚)」の意味をもつ「Tentacolo (テンタコロ)」に改名したのですが、子どもたちはいつのまにか縮めて「テンタ、テンタ…」と言うようになっていました。子どもたちの発音のしやすさを第一に考えて、「Tenta (テンタ)」に決定したというわけです。



平成25年度文部科学省事業「学校と地域の新たな協働体制の構築のための実証研究」に係る「泉都別府『協育』プロジェクト事業」

趣旨・目的	別府の産業（竹細工）を学ぶための学習支援 竹細工伝統会館で竹の訓練校を卒業し活躍中の職人を招聘し、実際に竹にふれ、竹の特性・特徴を知る。生活の中で使われている竹製品で平面編の面白さや竹を立体的に作り上げる難しさを体験することで竹の歴史や新しい竹の世界を学ぶ。 ※その他の授業もほぼ同じ流れ
日時	別府市立緑丘小学校：平成25年 11月29日（金） 別府市立鶴見小学校：平成26年 1月24日（金）
場所	別府市立緑丘小学校（3年生） 別府市立鶴見小学校（4年生）
内容	①竹を知る ②実演 竹を割る⇒削る⇒整える⇒編む ③竹細工を見る（照明、籠、など） ④体験する⇒作品として持ち帰れないので、写真を撮り記念に持って帰る ⑤まとめ
主講師	竹職人 大橋正臣 1973年 福岡県生まれ 1996年 九州芸術工科大学工業設計学科卒業 1999年 竹工芸家早野久雄氏に師事 2000年 九州クラフトデザイン展（00年～03年入選） 2003年 MGMホテル（ラスベガス）竹の照明器具「NEST」を設置、（澤田広俊氏とのコラボレーション）大分県別府市にて独立 2006年 若手竹工芸家グループ『BAICA』を結成 2007年 「Feel japan's beauty—竹」展（イタリア・ミラノ・ガレリア・デル・オルソ） 2009年 BEPPU ART AWARD グランプリなど
地域指導者	竹細工経験者・地域活動指導者
対象者	別府市立緑丘小学校（3年生） 別府市立鶴見小学校（4年生）
日程	1 時間目 1 組対象 導入・体験・撮影⇒展開 振り返り 2 時間目 3 時間目 2 組対象 導入・体験・撮影展開⇒ 振り返り 4 時間目 午後 竹細工伝統産業会館 見学

3-3 放課後活動のプログラム提供

別府市内の多くの学校で実施している放課後児童クラブや地域主催の「土曜塾」への支援を行う活動を始めた。前述した、大分大学生のボランティアサークル「コネクト」は、本事業をきっかけに立ち上がったサークルであるが、新年度から、新入生対象の会員の拡大を図る勧誘活動を行うこととしている。（詳細は後述する）

<朝日小学校放課後児童クラブと朝日土曜塾>

- 1月から始まった放課後児童クラブでは、学習支援や遊び活動を一緒にするなど、放課後（特に土曜日支援）の子ども達の活動支援を行った。子ども達は大学生の支援に満足であった。
- 朝日土曜塾は、多くの子どもが参加する、月一回行われる体験活動を行う塾であり、子ども達の土曜日活動プログラムを一緒にすることによって、子ども達の活動が充実するとともに、学生にとっても学ぶものがあった。

上記の2つの活動は、学習支援と別府を学ぶプログラムをセットして実施し、別府を学ぶ様々なプログラムを持つグループが指導者となって、大学生と共に実践した。

- <内容>「おんせんキッズスクール温泉のひみつ・むかしの別府」(NPO 法人ハットウ・トラスト)・「竹瓦かいわい路地裏散歩」(別府八湯語り部の会)・「アートの時間」(NPO 法人 BEPPU PROJECT)・「華道」(池坊別府支部)・その他

別府市立朝日放課後児童クラブボランティア活動の学生の感想

子ども達とのふれあいを通じて、私達も学ぶことがたくさんあります。本当に子どもは素直で、私達が大人に近づいていくにつれて言えなくなってしまったことを「さらっ」と言ってくれます。その中で私自信、先生や大学の友人から何度か注意を受けたことを子ども達に指摘されることがあり、とてもためになりました。また、子どもの人を見る目には驚かされるが多々ありました。子ども達は「このお姉さんにはこれをして大丈夫」「このお兄さんにはこれはしてはいけない」というような、人に接する時のコツを短時間で発見することに非常に長けています。このことから第一印象がとても大切なことを私は学びました。さらに、私たちの性格にあわせた子どもたちの気遣いも感じられ、心温まることもあります。

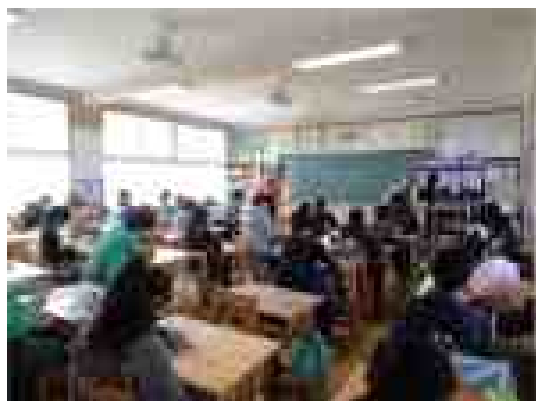
もちろん、私たちが子ども達の輪の中に参加することで、子ども達のためになることも沢山あります。最初に、子ども達と一緒に弁当を食べた時に、私がどこのテーブルで弁当を食べるのかという事で女の子達が推めてしまいました。しかし、私が置かれている姿を見て、高学年の女の子は譲り合いが出来ない低学年の女の子を注意し、低学年の女の子は一番小さな女の子に譲ってあげることが出来ました。私は、結局2つの机を行き来することに



し、譲ることの出来た女の子を「偉いね」と褒めました。すると、譲られたほうの女の子は、今度は私が譲って褒められたいという気持ちになったらしく、次にお弁当を食べる時には友達に譲っていました。しかし、これは学校の先生がしてしまうと子ども達は素直に受け取ることが出来ないことでもあります。大学生という立場は非常に子ども達と接しやすい立場です。また、学校の先生達には相談できないような話も、大学生には相談することが出来るようです。

<その他のプログラムの紹介>

「おんせんキッズスクール昔の別府」「温泉のひみつ」(NPO 法人ハットウ・トラスト)



「アートの時間」 (NPO 法人 BEPPU PROJECT)



「華道」(池坊別府支部)



3-4 まとめと考察

本章の1の表で示した学校からの支援要望に対して、いかに地域住民からの支援・支援プログラムを提供できるかが、推進する立場として重要である。支援内容は「ボランティアをする人」であったり、「専門家」であったり、様々な「文化」であったりする。このことから、別府市内の人的ネットワークづくりが最重点として取り組まれることが必要である。

しかし、9月調査の際に「支援して欲しいこと」として整理されたにもかかわらず、その具体的な打ち合わせになったとたんに「多忙」「実施予定はない」というのが現状である。これは学校外の活動支援についても同様である。年度当初の教育課程や年間計画立案の際に情報を提供して、活動に位置付ける資料として活用していただくことが必要である。

実際に支援した活動については、学校も児童も有効であり、支援した学生にとっても「学びとなった」という結果があり、この取り組みの重要性が裏付けられたこととなる。

第4章 産学官民など多様な主体による学校と地域の双方の活性化のための仕組みづくり

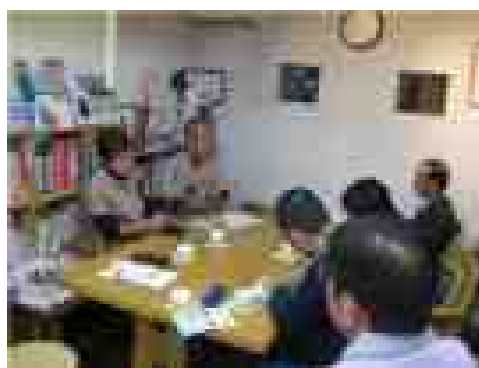
第2章及び第3章の活動をする中で別府市内の企業・団体・学校・行政・民間組織等のネットワークを進めると共に、それぞれが持つ活動プログラムのネットワーク及び活動プログラムを全市的に提供していくシステム作りを進めた。

4-1 検証内容

(1) 活動支援メンバーの発掘とネットワーク化

○別府市内には子ども達の学びを支援するための活動を行う多くの団体サークルがある。しかし、これまで個別に学校等へ支援活動を行っていたため幅広く充実した子ども達の学びを支援することが困難であった。

＜プログラム作りの打合せ＞



(1) 活動プログラムづくり

○市内の各種団体グループは既にプログラムを持っている。そのプログラムをスムーズに学校等へ紹介し、学校等で活用するための一元的なメニューが必要である。さらに、それらのプログラムをより充実するために他のプログラムとの融合・連携・協力によって新しいプログラムを開発することが求められている。

(2) 全市的なシステムづくり

○(1)(2)によって繋がった各種プログラムをスムーズに学校等へ紹介し、学校等で活用する仕組み作りが必要である。現在の学校支援地域本部の機能を充実し、繋いでいく、全市的な「プラットフォーム」の存在がもとめられる。

4-2 成果としての「仕組み」

今回の事業でのシステムづくりとしての成果として

- ①温泉都別府「協育」プロジェクトという学校等を支援する中心的な民間組織ができたこと
→この組織を将来的にどう継続させるかが問われる
- ②学校等から選択出来るプログラムが「協育たいけんカタログ」として出来上がったことにより、学校等が年間計画の中に入れやすくなった。
→このプログラムを提供するシステムをどう継続し、個々のコミュニティ・スクールが全市的な情報を活用していくシステムをどう作るか課題である。
- ③活動支援プログラムの提供者が、一冊の「カタログ」作成をとおしてネットワークを作ることができた。さらに、今の組織の中で子供対象の活動を始めたり、新しく支援組織できたりしことは本事業の大きな効果であった。

4-3 具体的な事例

(1) 大分大学学習ボランティアサークル「コネクト」の発足

このサークルは、今年の1月から、別府市の小学校や中学校への学習支援を行っています。学習支援

を行っている大学生は、別府出身の大分大学の学生です。同じ別府市で育った後輩である子ども達の成長に、私たちが携わることで何か子ども達に良い影響を与えられたらという思いがサークルの発足に繋がりました。学生たちが、小学生や中学生時代に気づかなかったことなど、今になって「そうーか・・・」と思うことなど、子どもたちと関わりながら伝えていきたいという思いで発足しました。

サークル名は「コネクト」。この「コネクト」という名前には、「人と人との繋がりを大切にしていきたい」という思いを込めました。学習支援といっても、勉強を教えるだけではなく、子どもたちと一緒に遊ぶことで思いやりの心を育てたり、私たちの子どもの頃の遊びを教えたりと、勉強や遊びを通して友達の大切さや、別府の素晴らしさなど、様々なことを子ども達に伝えることを目標にしています。

現在、別府大学の長尾准教授が関係する学生とも合同したサークルへと発展させようとしています。

別府出身の大分大学生のサークルへ

サークル名「コネクト(繋がれ)」

★別府市内の小・中学生の学習支援サークルへの招き★

【内 容】 学習支援・スポーツ活動・創作活動支援・防災活動
 別府市社会福祉センターなど
※サークル活動の中心は別府市内です

【活動時間】 活動日曜 土曜日 日曜日 その他
※活動日曜・土曜日は別府市内で活動を行います

一緒に活動している仲間も募集しています
 別府市内の小学生の募集にも関わっております

【メンバー募集先】 大分大学経済学部2年生 佐藤 真
〒872-8501 大分県別府市別府2-1-1

【活動場所】 大分県別府市別府2-1-1
別府市社会福祉センター

【活動時間】 活動日曜・土曜日・日曜日
※活動日曜・土曜日は別府市内で活動を行います

【お問い合わせ先】 佐藤 真
 電話) 099-422-3100
E-mail) kcn@econ.dpu.ac.jp

◎◎ 募集日は毎週水曜日に打ち合わせを行っています ◎◎

【備 考】 別府市福祉文化施設別府市福祉センターのセンター費
【申し込み】 別府市福祉文化施設別府市福祉センターへ申し込み、受付にお越し下さい
※お申し込みの際は佐藤真までメールまたはお電話をお願いします。

協賛団体

お問い合わせ	
名前	〒
メールアドレス	
電話番号	住所
	郵便
活動の可能な曜日・時間	

(2)「協育たいけんカタログ」の作成

別府市内の各企業・行政・団体・民間組織が持つプログラムを一体的に提供していこうとする基となる「協育体験カタログ集」を作成した。今後このカタログに賛同してくれる組織などのプログラムを収集し、学校及び学校外の子どもたちに提供できるプログラムを拡大していく必要がある。このカタログを活用し学校及び放課後児童クラブ等の活動を充実し、ふるさと別府を専門的に楽しく学ぶ機会を増やす支援をしていく。

カタログ集を作成するにあたってお願いした様々な組織団体は、ふるさと別府を学ぶ多くのプログラムを持っており、そのプログラムが有効に活かされ「ふるさと別府の学び」に繋げていきたいと願っている。しかし、このプログラムを学校及び放課後児童クラブ等とどうマッチングさせていくかという大きな課題があり、行政としての仕組み作りが重要であると考えている。

「してみたい!」「学びたい!」「楽しい!」
～子どもの体験や学び、交流のお手伝いをします～

1	別府の魅力を学ぶ プログラム	おんせんキッズスクール温泉のひみつ	NPO 法人ハットウ・トラスト
2		おんせんキッズスクールむかしの別府	NPO 法人ハットウ・トラスト
3		えんぴつ画で別府を見る	清島アパートアーティスト
4		毛糸の世界	清島アパートアーティスト
5		別府の魅力のあしあと (近代)	佐藤溪美術館 (聴潮閣高橋記念館)
6		写真から気付く別府の魅力	写真家
7		新たな竹の可能性	竹職人
8		3Dで浜脇高等温泉を体験	NPO 法人
9		オンパクのまちづくり学ぼう	NPO 法人オンパク
10		歴史・文化・人物・産業を学ぶ	別府史談会
11		別府八湯を語る	別府市観光協会
12		山手レトロ散策	別府八湯語り部の会
13		竹瓦かいわい路地裏散歩	別府八湯語り部の会
14		鉄輪温泉ってどんどこ	NPO 法人鉄輪湯けむり倶楽部
15	おもてなしを学ぶ プログラム	華道	池坊別府支部
16		じねたび、ココロクルギフトのはなし	NPO 法人オンパク
17		別府のホテル・旅館のおもてなし	中小企業同友会
18		車いすで歩く~別府の旅~	NPO 法人自立支援センターおおいた
19	学習の基礎を学ぶ	体験しよう 別府	NPO 法人オンパク
20		あぞびの教室	NPO 法人 BEPPU PROJECT
21		異文化・多文化教室	e-k a m i s h i b a i
22		異文化・多文化教室	音あそび (べっぷ音楽)
23		アートの時間	NPO 法人 BEPPU PROJECT
24		読み聞かせ	NPO 大分県「協育」アドバイザーネット
25		読み聞かせ	大分大学 学生グループ「結 (ゆい) ト
26	学習・活動支援	放課後・長期休業の学習や活動支援	大分大学 学生グループ「コネクト」
27		教育援専門家の学習支援	別府市退職校長会
28	総合的な支援	外国文化・国際理解・学習支援	別府大学
29		外国文化・読書活動・学習支援	立命館アジア太平洋大学

第5章 今後の方向性

「学校と地域の新たな協働体制の構築のための実証研究」事業を受託して、「おんせん県おおいた・別府型ドリームプロジェクト～泉都『協育』プロジェクト～」を組織し、「ふるさと別府を学び、愛し、別府への旅行者への最高のおもてなしができる人材の育成」をテーマに下記の具体的なテーマのもとに実証研究を行った。

<具体的なテーマ>

テーマ1. 教育内容の充実のためのコーディネート機能の強化

テーマ2. 放課後等の継続的・体系的なプログラム開発と提供の仕組みづくり

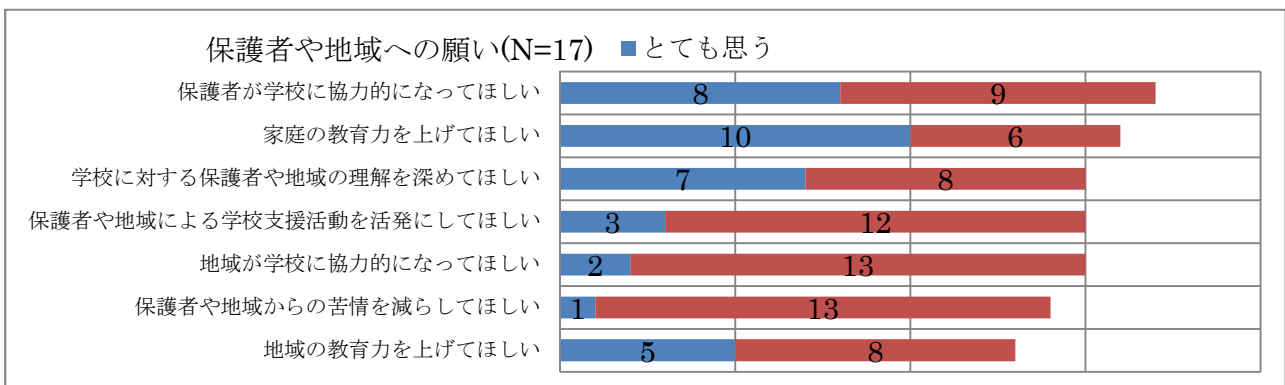
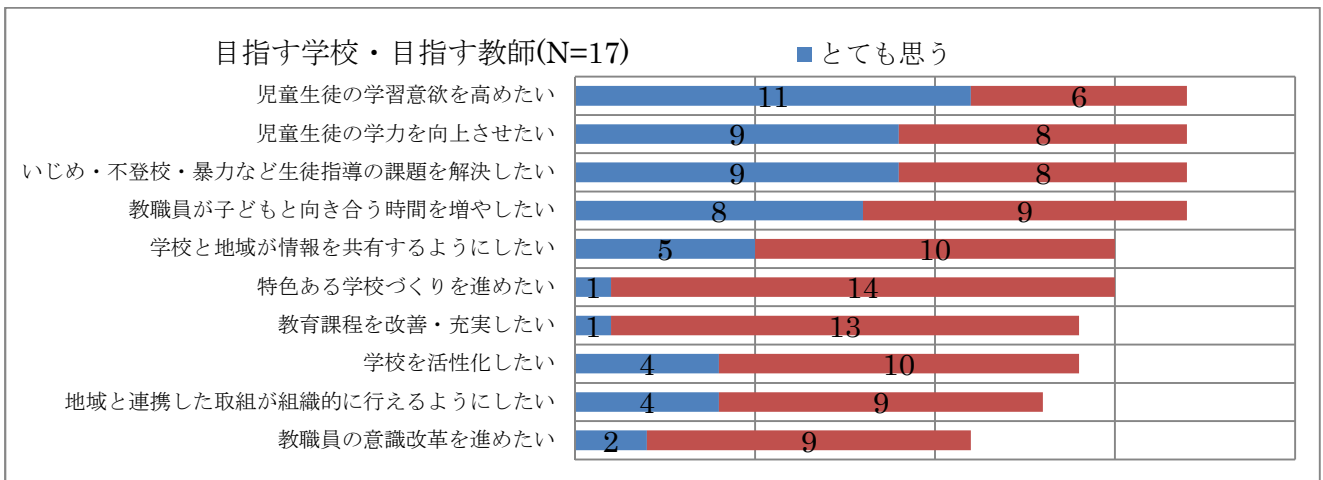
テーマ3. 産学官民など多様な主体による学校と地域の双方の活性化のための仕組みづくり

その成果と課題は各章において述べてきたので、本章では今後の方向性についてまとめることとする。

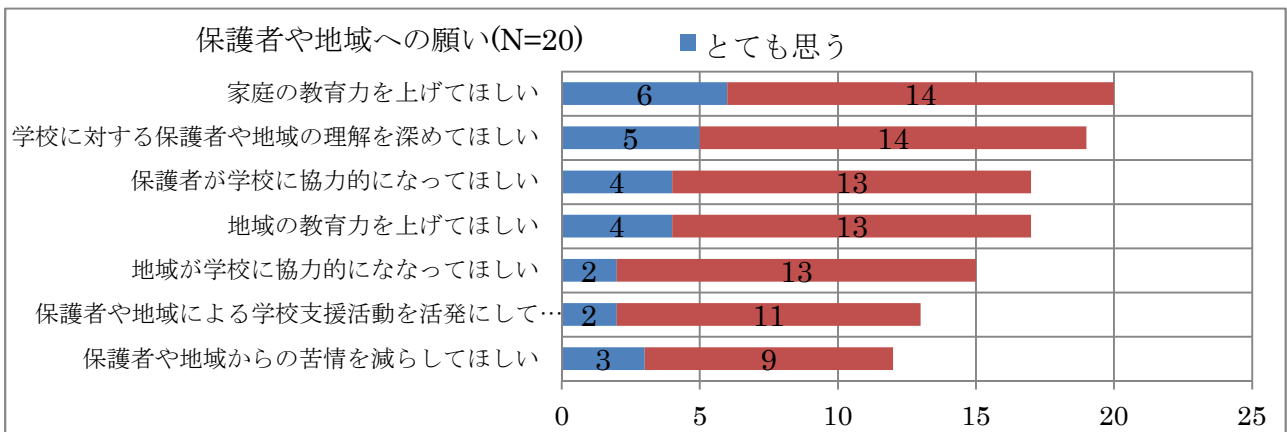
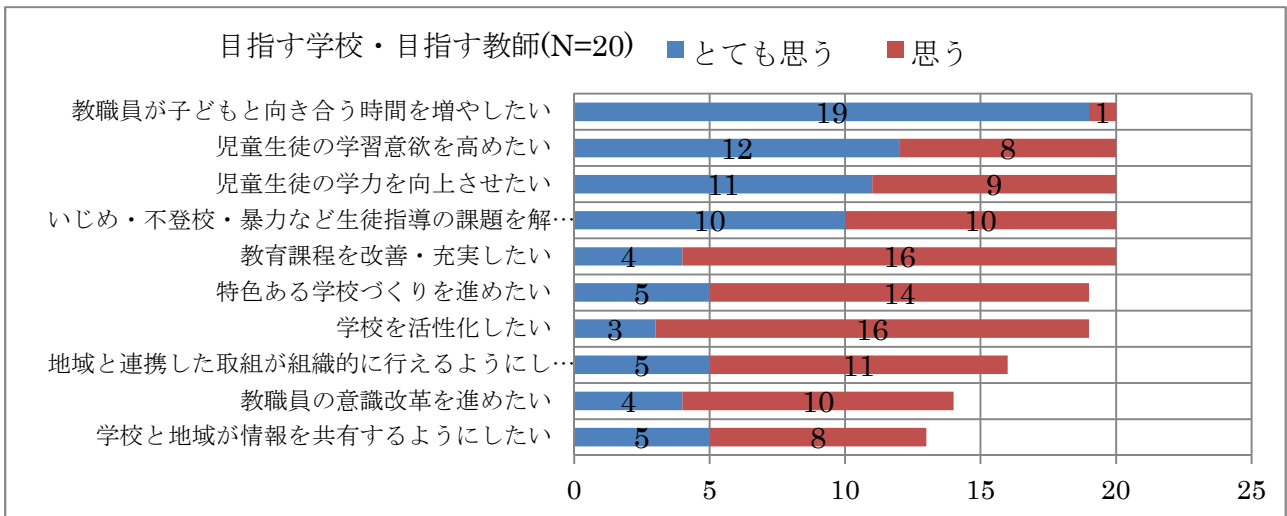
1. 関係者への研修をとおした意識改革と共通理解の浸透を図ること
2. 別府市における全域的な学校支援、学校外支援システムを官民一体となってつくること
3. 各学校、各公民館、各機関等がそれぞれの中のシステムを正確につくること

さらに、下図に示した2つの学校の教職員の意識からもわかるように、子どものために何をしなければならないという意識は十分にあるが、現実的にはそのことによる多忙感の問題や、研修が進んでいないために期待感が持てていないなど、多くの課題があることもわかる。

<別府市立A小学校>



<別府市立 A 小学校>



この取り組みは優秀人材が存在する学校のみではなく、「全ての子どもたちのために、全ての学校で、全ての地域で進められることが重要であり、そのためにも本年度の成果をシステムとして活用するためのさらなる実証研究が必要であることを報告してまとめとする。